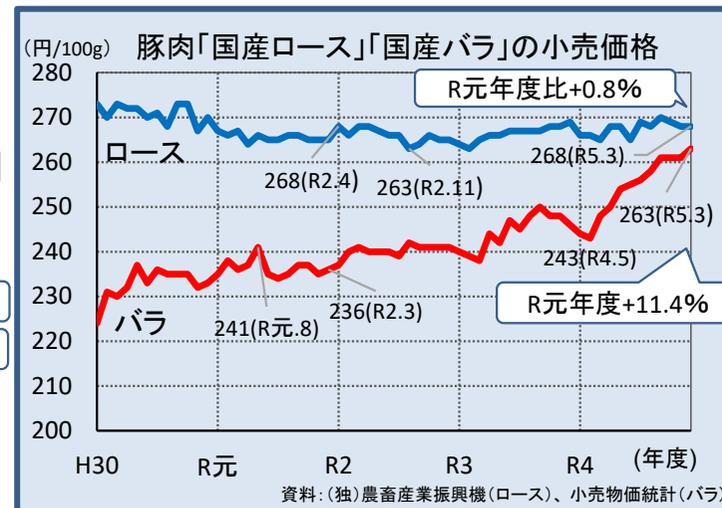
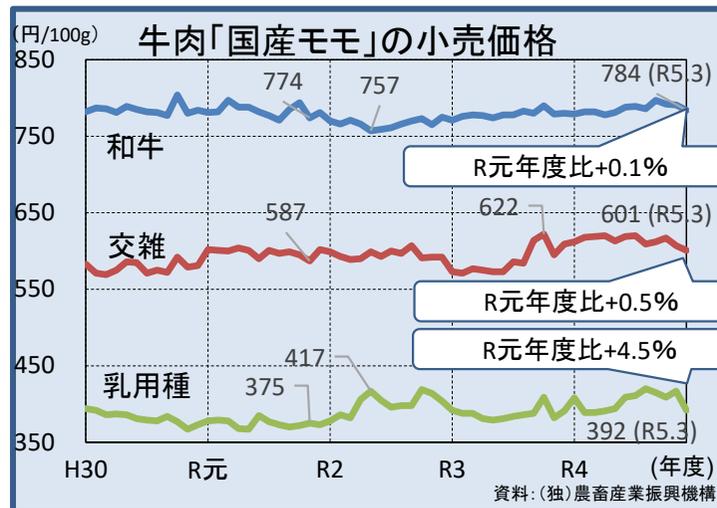
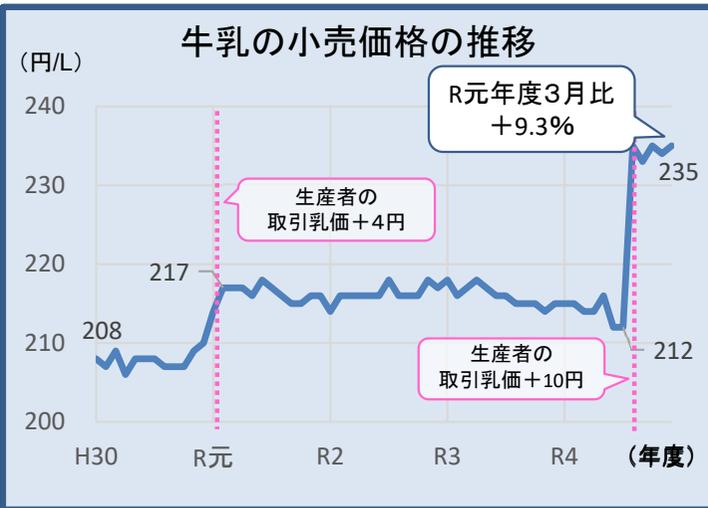


畜産物の小売価格の動向

- 牛乳の小売価格は、飲用向け乳価の上昇に伴い、直近では令和元年度3月比と比較し9.3%上昇。
- 牛肉・豚肉の小売価格は、食肉市場のセリ価格等を基準に設定されるが、牛肉は令和元年度と比較しやや上昇、豚肉は輸入豚肉の高騰等を背景に、近年需要が高まっているバラでは11.4%上昇。
- 鶏肉の小売価格は、輸入鶏肉の高騰等を背景に国産の引き合いが高まり、令和元年度と比較し11.5%上昇
- 鶏卵の小売価格は、生産コストの上昇に加え鳥インフルエンザの発生による供給量減少等により、令和元年度と比較し28.7%上昇

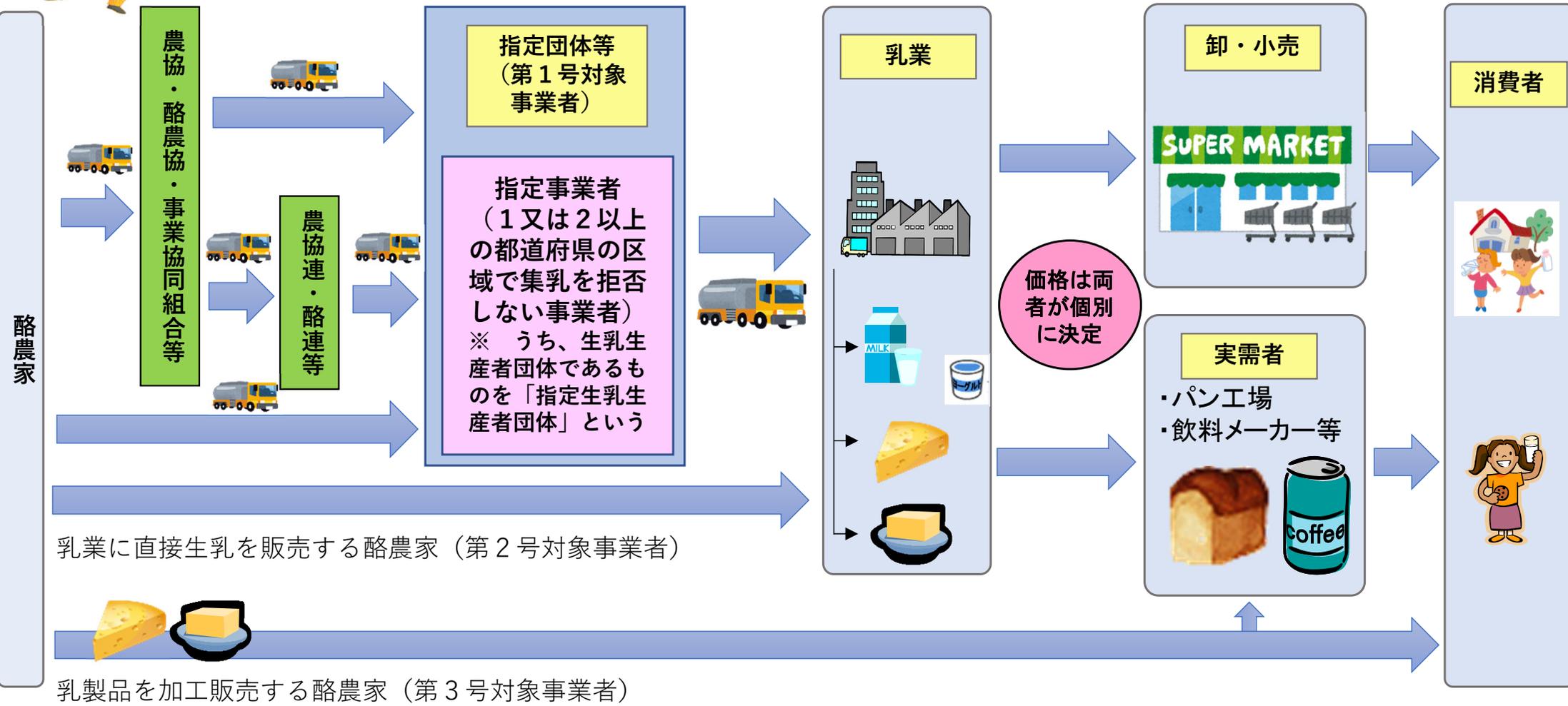


資料: 総務省「小売物価統計調査」

(参考)牛乳乳製品の流通



生乳を集めて乳業に販売する事業者 (第1号対象事業者)

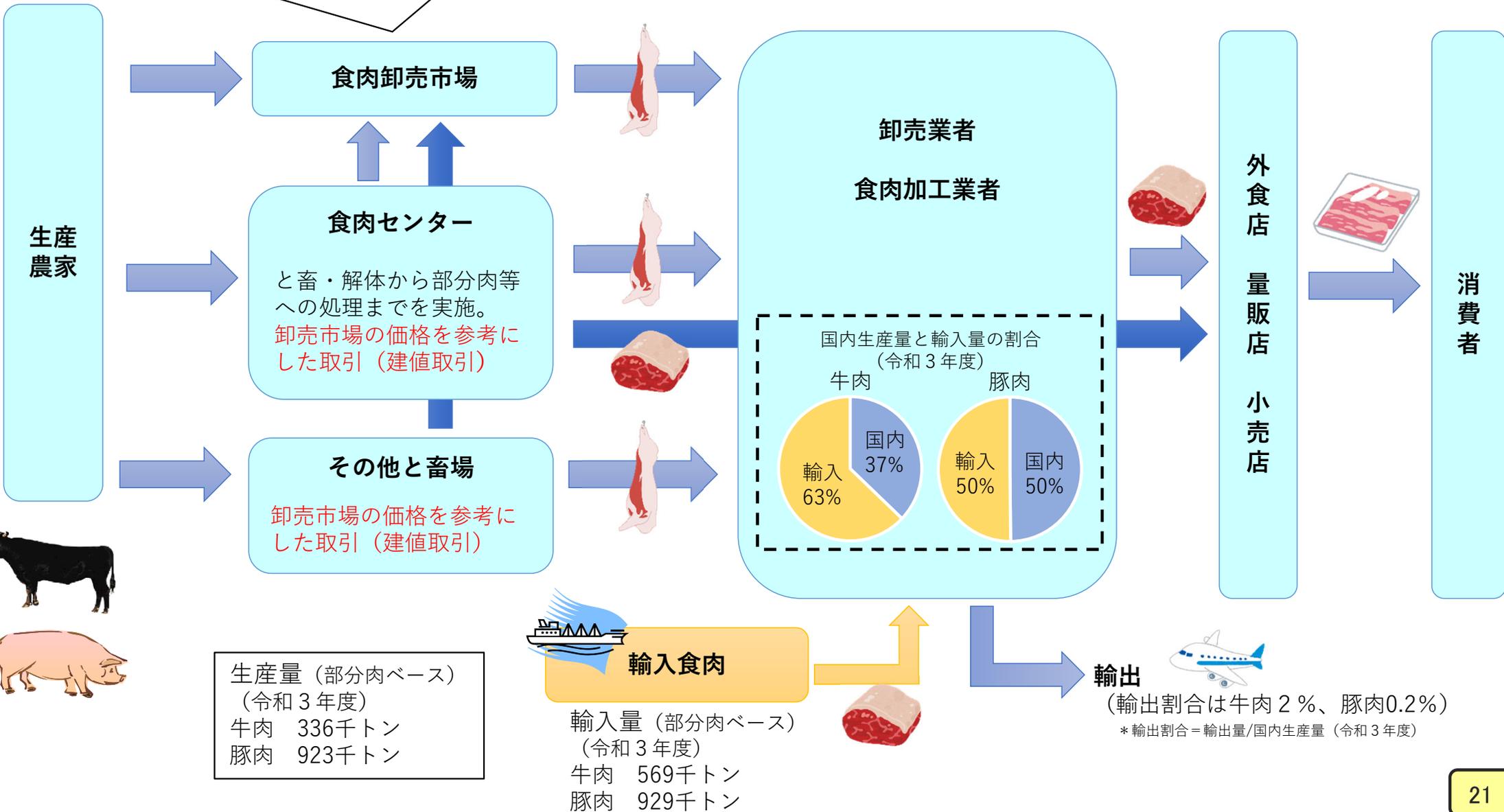


乳業に直接生乳を販売する酪農家 (第2号対象事業者)

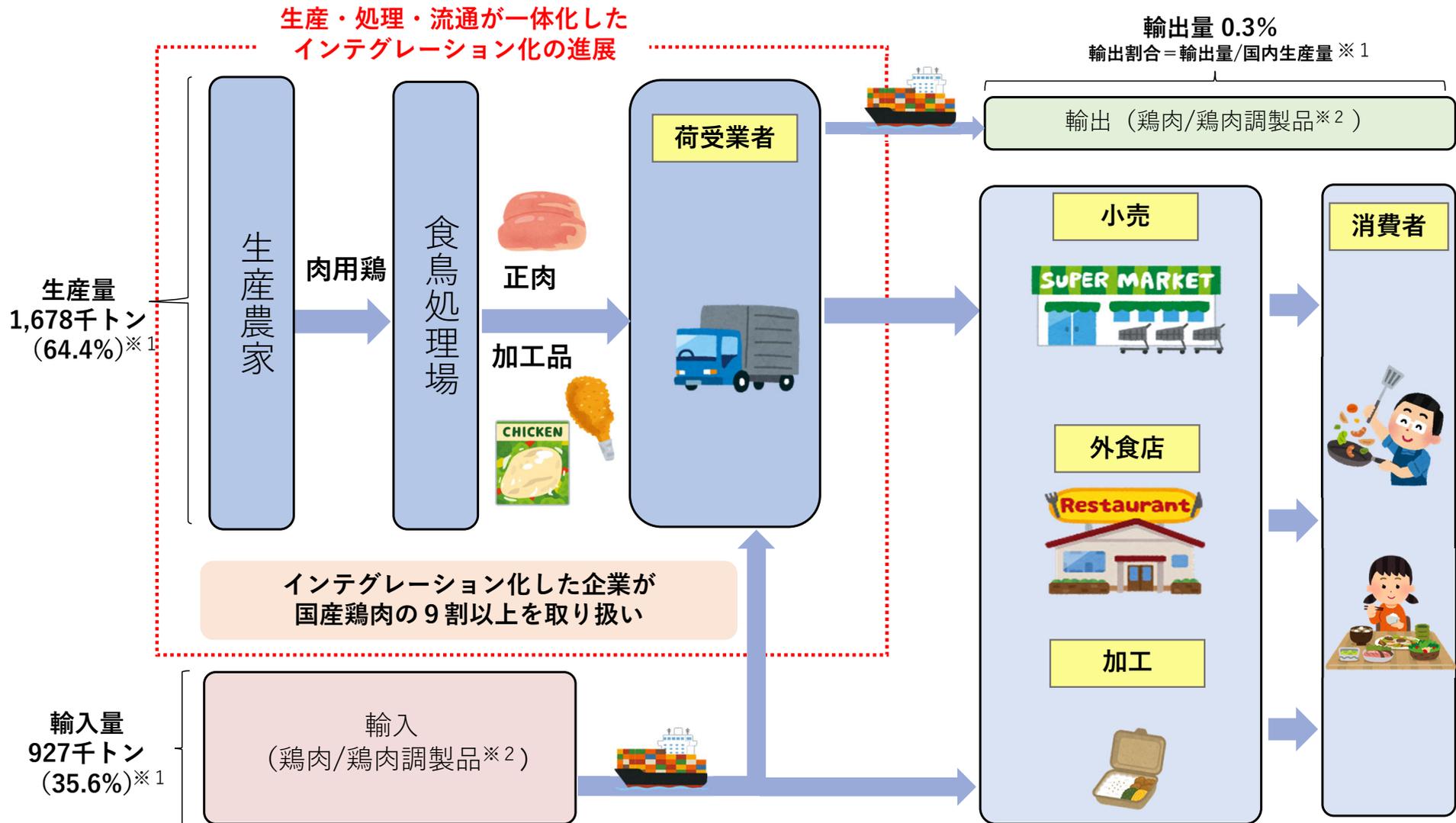
乳製品を加工販売する酪農家 (第3号対象事業者)

(参考)牛肉・豚肉の流通

多数の購買者が価格をセリ合い一番高い価格をつけた者が買い受ける
「セリ売」により枝肉卸売価格を形成 (→建値形成の機能)



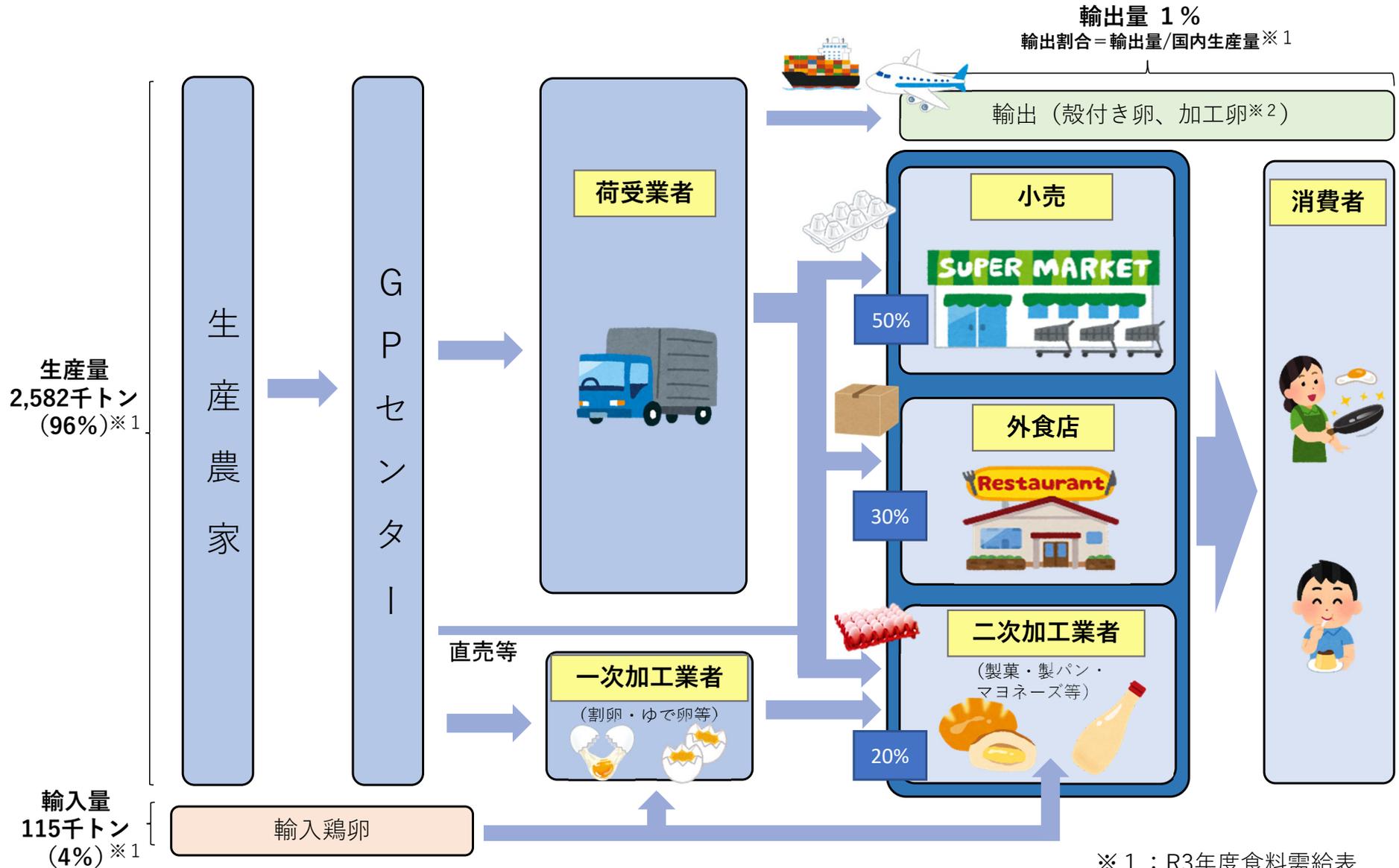
(参考) 鶏肉の流通



※1 : R3年度食料需給表 (採卵鶏を含む)

※2 : 唐揚げ、焼き鳥、フライドチキン、チキンナゲット、サラダチキン等

(参考) 鶏卵の流通

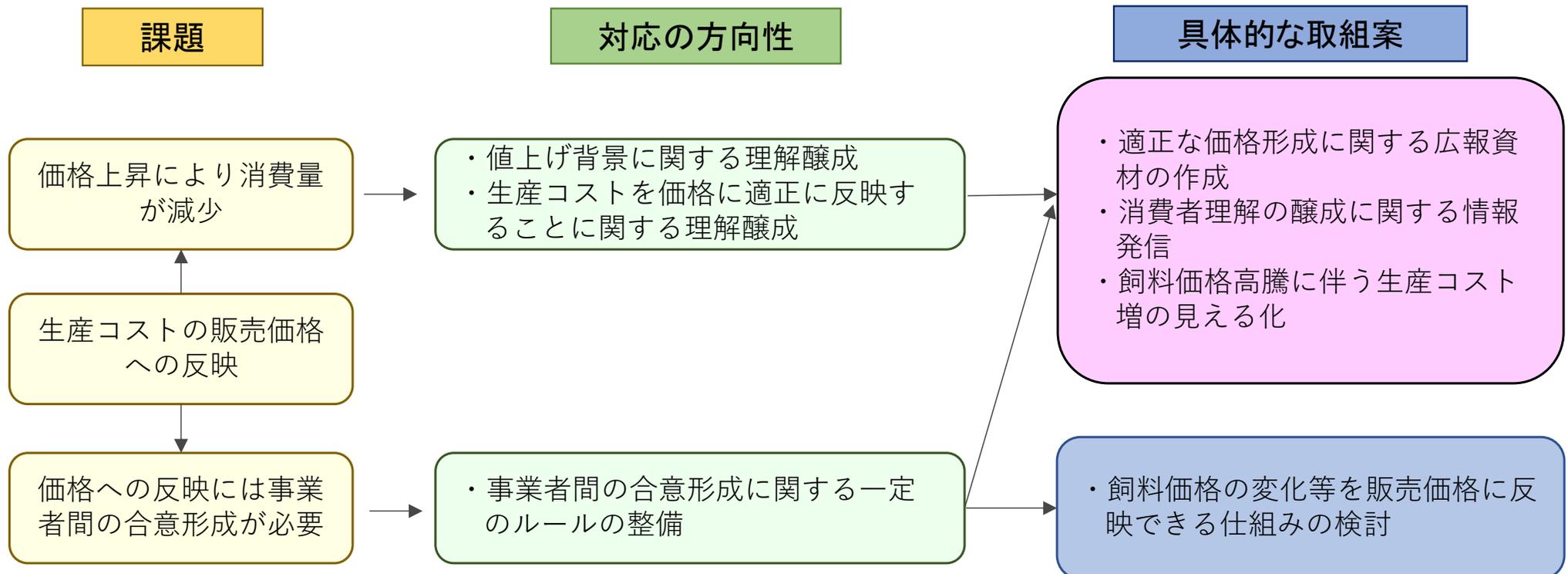


※1 : R3年度食料需給表

※2 : 温泉たまご、錦糸卵等

適正な価格形成に向けた課題と取組方針

- これまで消費者の需要に応じて畜産物の供給を行ってきたが、その需要に応えるために必須である飼料の価格が高騰。
- 畜産物を将来にわたり安定的に供給するためには、生産・流通の努力のほか、飼料を始めとする生産コストを適切に販売価格に反映させることが重要。(適正な価格形成)
- 適正な価格形成を進める上では、価格の上昇に伴う買い控えなどにより消費量が減少することや、価格への反映に関する事業者間の合意形成が課題。
- 畜産物の適正な価格形成に向けた環境整備を進めるため、これらの課題に対して対応策を検討する必要。



畜産物の適正な価格への反映に向けた取組方針について

- 畜産物を将来にわたり安定供給するためには、適正な価格形成の実現を推進する仕組みづくりが重要

畜産・酪農の適正な価格形成に向けた環境整備推進会議

消費者の理解醸成

- 広報資材の作成・情報発信の検討
- 飼料価格上昇に伴う生産コスト増の見える化の検討

コスト反映に向けた仕組みづくり

- 生乳取引価格に配合飼料価格の変化等を反映できる方法の検討

生産者、食品事業者、消費者等国民各層の理解と支援の下で生産コスト等を畜産物価格に反映しやすくするための環境の整備を図る

生産コスト等を適正に価格へ反映することによる畜産物の安定供給

広報資材の作成・情報発信の検討

- 円滑な価格への反映を進めるためには、生産コスト上昇の背景や生産者等の努力を消費者に知ってもらう必要。
- 広報資材を作成するとともに、より効果的な情報発信の方法を検討してはどうか。

H19~20年度の広報資材の考え方

○内容

- ・畜産物の生産コストの上昇(トウモロコシ価格上昇に伴う飼料の高騰)
- ・生産者の努力(コスト低減、自給飼料増産)
- ・価格への反映の必要性

○発信方法

- ・消費者団体、卸・小売団体、生産者団体を通じて広く消費者に発信することを想定。
- ・マスコミ等への情報提供(新聞解説者への説明等)
- ・ブロック毎(9ブロック10か所)の説明会の開催
- ・消費者向けパンフレットの作成、配布



今回の広報資材の考え方

○内容

- ・畜産物の生産コストの上昇(飼料原料価格の上昇)
- ・生産者の努力(コスト低減、自給飼料増産)
- ・価格への反映の必要性
- ・食料安定供給の必要性

○発信方法

- ・消費者団体、卸・小売団体、生産者団体を通じて広く消費者に発信することを想定。
- ・マスコミ等への情報提供(新聞解説者への説明等)
- ・ブロック毎の説明会の開催
- ・消費者向けパンフレットの作成、配布
- ・動画やSNSの活用

飼料価格高騰に伴う生産コスト増の見える化の検討

- 畜産経営コストにおいては、飼料費が牛で3～5割、豚・鶏で5～6割と高い割合を占める。
- 事業者の価格交渉に活用してもらうとともに、消費者に値上げの妥当性を理解してもらうために、生産段階の飼料コスト上昇に伴う生産コスト増の見える化を平成20年度の例を参考に検討してはどうか。

H20年度の試算の考え方

○基本的な考え方

- ・生産費のうち飼料費(※)のみに着目。

(※)飼料費の内容

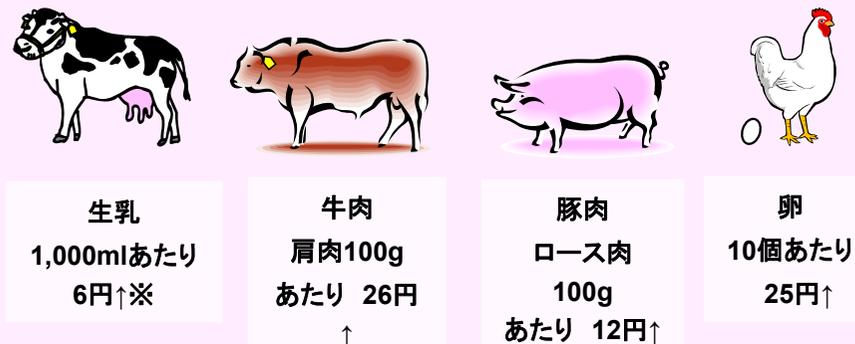
- 生乳、牛肉、豚肉：配合飼料、大豆油かす、とうもろこし
(出典：畜産物生産費統計)
- 鶏卵、鶏肉：配合飼料費 (出典：営農類型統計)

- ・例えば生乳については、配合飼料、大豆油かす、とうもろこしのそれぞれについて、平成18年第2四半期と平成20年第2四半期の飼料価格の変化率を平成18年度数値(畜産物生産費統計)に乗じて、それらの数値を合計。
- ・飼料費の増加分はすべて販売価格に反映されたと仮定。
- ・飼料費以外の生産費は、起点(平成18年度)と変わらないものと仮定。



生産コスト増の見える化のイメージ (平成20年度農林水産省作成パンフレットより抜粋)

飼料価格の上昇分を4月現在の小売価格に反映させた場合の上昇額



※生乳については、牛乳の小売価格ではなく、生産者が乳業メーカーから受け取る価格(都府県)

●小売価格には、流通段階における経費等を含みますが、本試算は配合飼料価格の影響についてのみ試算したものです。

農林水産省試算値(平成20年7月時点)

生乳取引価格に配合飼料価格の変化等を反映できる方法の検討

- 主要な生産コストである配合飼料価格に着目し、例えば交渉により価格が決定する生乳取引について、配合飼料価格の変動分を一定のルールに基づいて上乗せするような仕組みを検討できないか。
- 仕組みの検討に際しては、利害関係者が非公開の場で議論できるようにする必要があるのではないか。

